



# 株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co., LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード:3741

## 2014年3月期 第2四半期決算 説明資料

2013年11月28日






# <目次>

- **事業概要**
- **第2四半期決算概要**
- **通期業績見通し**
- **注力分野の状況**

**(オーブンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)**

# 事業概要

# 5つの事業分野と技術サービス

ビジネスフィールド	技術サービス			リアルタイムソリューション
	リアルタイムソフトウェア			
	エンベデッドソフトウェア	コアテクノロジー	技術アプリケーション	
モバイルネットワーク		オープンプラットフォーム技術	基幹ネットワーク	<b>RealtimePowerシリーズ</b>  機能安全対応 RTミドルウェア <b>RTMSafety</b>
ワイヤレス	スマートフォン タブレット	地上デジタル放送技術		 地上デジタル放送用 組込みソフトウェア <b>airCube</b>
インターネット	非接触型IC 情報家電 車載端末	ベクトル描画技術 XML技術	Webシステム	 位置情報サービス プラットフォーム <b>airLook</b>
社会基盤システム		位置情報サービス技術	防衛、放送 交通(ITS, 航空) 環境エネルギー	 SVG製品ファミリー <b>airSmartG</b>
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器 ロボット	ロボットソフトウェア共通化技術	人工衛星 天文	 超高速 インメモリXMLデータベース <b>Karearea</b>

# 第2四半期決算概要 (2014年3月期)

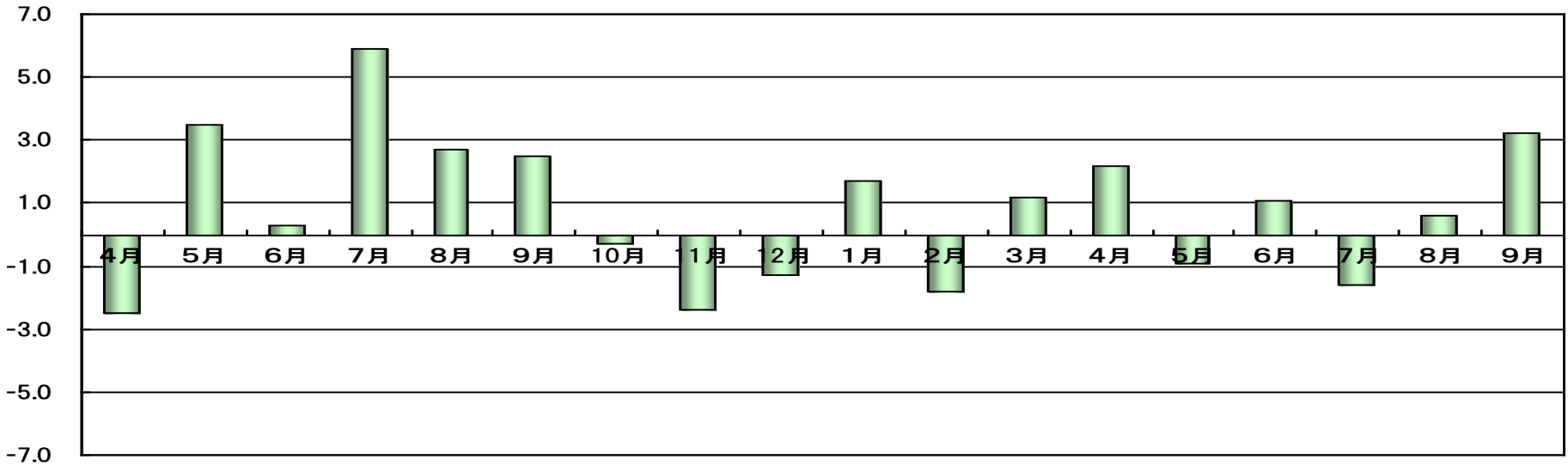
# 事業環境

## 2014年3月期第2四半期の事業環境

2013年4月から2013年9月までの月別売上高は、増減を繰り返しているが、IT需要は全体的に回復傾向にある。

単位：%

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)



### ■ 当社事業領域

- 携帯メーカーからのスマートフォン端末の開発が減少し、スマートフォンを使った新たなサービスの開発の需要が増加
- 新しいプラットフォームに既存のサービスを適合させる開発が増加

# 2014年3月期第2四半期総括

売上高、受注高、受注残高ともに第2四半期過去最高を更新

## ■売上高、利益面ともに計画を上回り、前年同期比で増収増益

- 売上高は、オープンプラットフォーム関連商談を中心に受注が好調で、過去最高（売上高：計画達成率109%、前年同期比123%）
- 営業利益及び経常利益は、売上高が伸びたことにより、計画を上回り増益（営業利益：計画達成率102%、前年同期比138%、経常利益：計画達成率105%、前年同期比139%）

## ■受注高は計画を上回り、受注高、受注残高ともに前年同期比で増加

- 受注高は、オープンプラットフォーム、官公庁系の商談が活発で計画を上回り、20億円を越えて過去最高（受注高：前年同期比115%）
- 受注残高は、10億を維持し、第2四半期末では過去最高（受注残高：前年同期比105%）

## ■オープンプラットフォーム、社会基盤システムの受注が増加

- 移動体通信事業者やマルチメディア放送事業者向けのオープンプラットフォームに関連するサービス系のエンベデッドソフトウェアが好調
- 官公庁系、放送局向けの技術アプリケーションが大幅に増加
- 非接触型ICのエンベデッドソフトウェアが堅調を維持

# 第2四半期損益計算書

	2013年3月期 (百万円)	2014年3月期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	1,683	2,076	123.4%	1,900	109.3%
売上原価	1,222	1,530	125.2%	1,350	113.3%
売上総利益	461	546	118.5%	550	99.4%
販売管理費	260	271	104.0%	280	96.8%
営業利益 (営業利益率)	200 (11.9%)	275 (13.3%)	137.5%	270 (14.2%)	102.1%
経常利益 (経常利益率)	209 (12.4%)	290 (14.0%)	139.0%	280 (14.7%)	103.9%
当期純利益	125	177	141.6%	160	110.7%

**売上原価** 外注費が大幅増(411百万円、前年同期比164%増、売上高外注比率19.8%、前年同期9.2%)

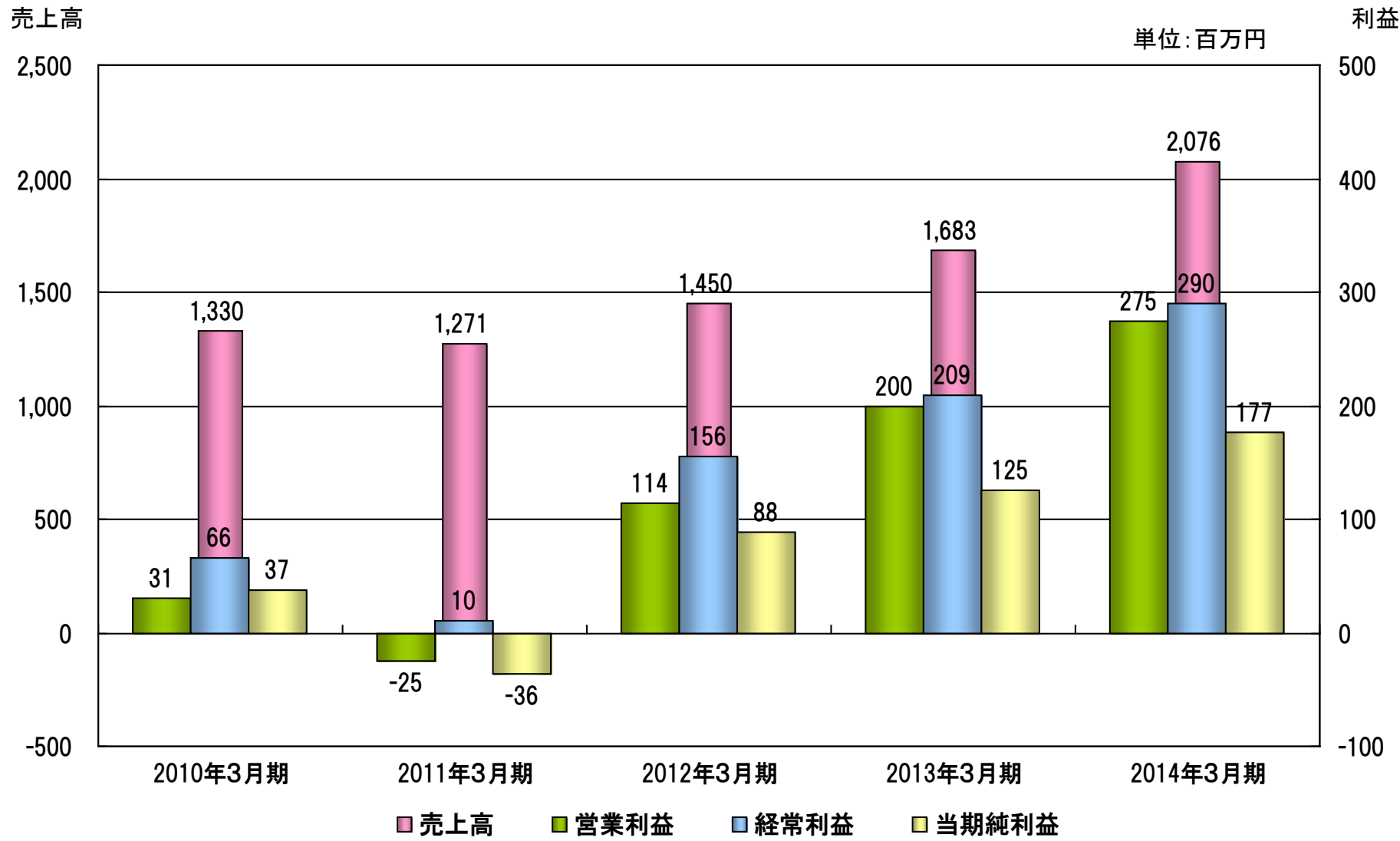
**販売管理費** 研究開発費が増加(31百万円、前年同期比211%増)

**営業外損益** 研究開発の補助金収入は8百万円(前年同期比343%増)、環境エネルギー継続、ロボット新規

**特別損失** 本社増床費用など4百万円(前期は大阪事業所移転費用など5百万円)



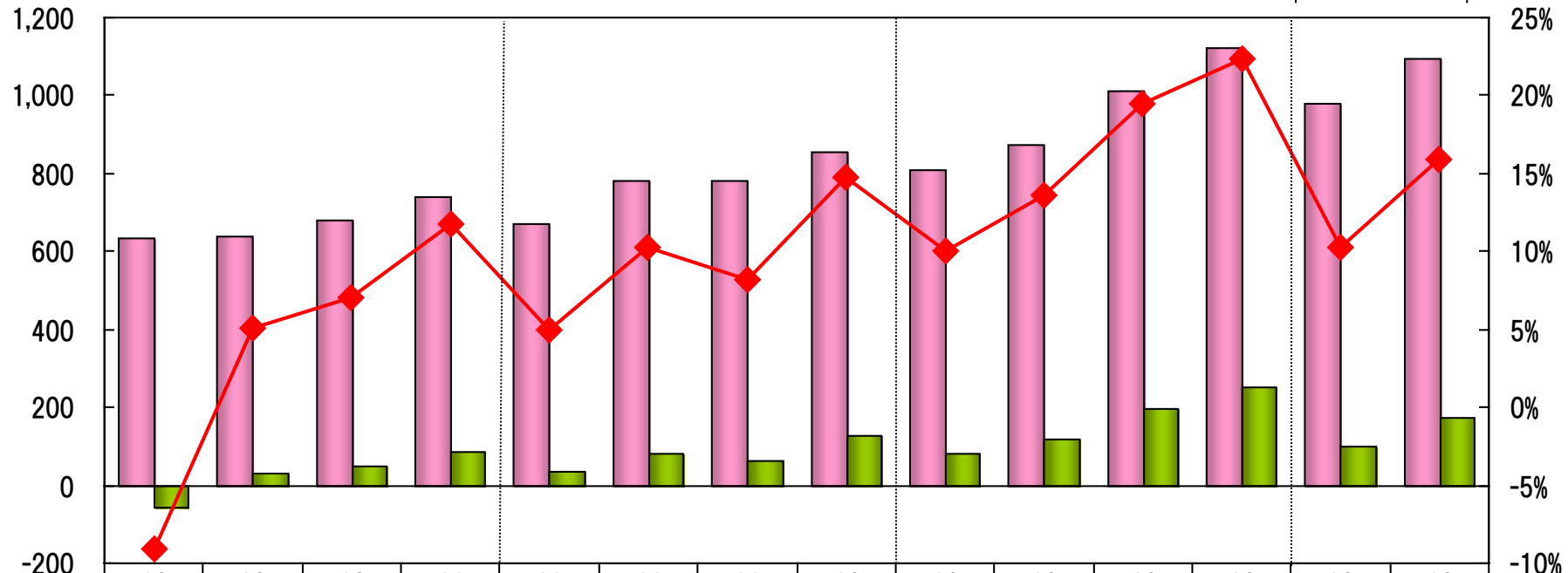
# 第2四半期決算業績推移



# 四半期業績推移(PL)

10四半期連続で前年同期比増収増益、営業利益率も10%以上で推移

単位:百万円



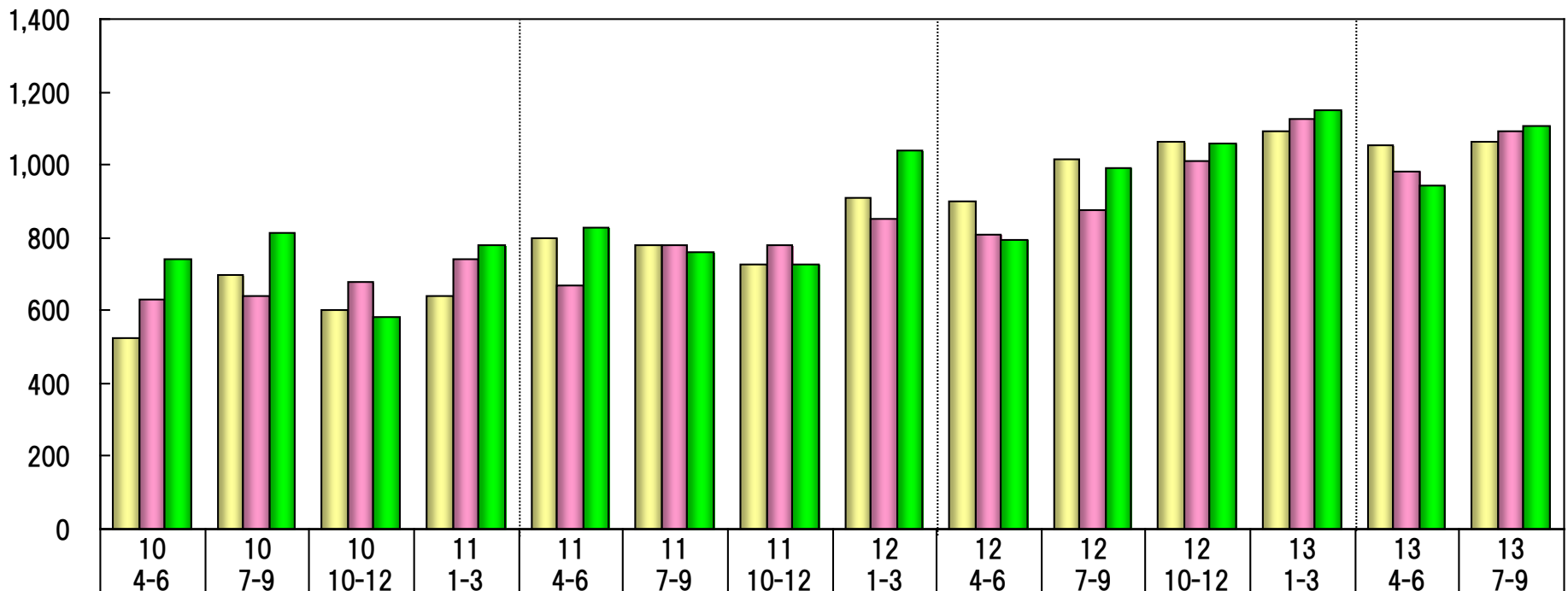
	10 4-6	10 7-9	10 10-12	11 1-3	11 4-6	11 7-9	11 10-12	12 1-3	12 4-6	12 7-9	12 10-12	13 1-3	13 4-6	13 7-9
売上高	632	638	680	739	670	779	780	853	807	875	1,010	1,124	981	1,094
営業利益	-57	32	47	87	33	80	63	126	80	119	196	250	101	174
営業利益率	-9.1%	5.1%	7.0%	11.8%	5.0%	10.3%	8.2%	14.8%	10.0%	13.6%	19.5%	22.3%	10.3%	15.9%

売上高 営業利益 営業利益率

# 四半期業績推移（受注）

受注高は、第2四半期に11億円となり、上期で初めて20億円を超えた  
受注残高は、5四半期連続で10億円を維持

単位：百万円



受注残高	525	697	601	642	801	779	726	911	900	1,014	1,064	1,093	1,052	1,065
売上高	632	638	680	739	670	779	780	853	807	875	1,010	1,124	981	1,094
受注高	739	811	584	779	829	758	726	1,039	796	989	1,060	1,152	941	1,107

■ 受注残高 ■ 売上高 ■ 受注高

# 第2四半期BF別の状況

## ワイヤレス、社会基盤システムが好調

ビジネスフィールド	2013年3月期		2014年3月期			前年 同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	184	10.9	178	8.6	92.7	96.7
ワイヤレス	723	42.9	1,043	50.2	123.9	144.3
インターネット	305	18.2	232	11.2	89.6	76.1
社会基盤システム	164	9.8	364	17.6	118.3	221.5
宇宙先端システム	159	9.5	162	7.8	74.9	101.6
ソリューション	146	8.7	96	4.6	117.7	65.9
合計	1,683	100.0	2,076	100.0	109.3	123.4

モバイルネットワーク	法人向けサービスの技術アプリケーションが減少	⇒ 売上高は減少、利益面は増加
ワイヤレス	オープンプラットフォームに関連するサービスの開発が増加	⇒ 売上高は増加、利益面も増加
インターネット	非接触型IC関連堅調、民間企業向け技術アプリケーションが減少	⇒ 売上高は減少、利益面も減少
社会基盤システム	官公庁系と放送局向けの技術アプリケーションが大幅に増加	⇒ 売上高は増加、利益面も増加
宇宙先端システム	先端技術に関わる国の研究機関向けの技術アプリケーションが増加	⇒ 売上高は増加、利益面は減少
ソリューション	airCube for Androidのロイヤリティ収入の減少	⇒ 売上高は減少、利益面も減少

# 第2四半期技術サービス別の状況

## エンベデッドソフトウェアが好調

技術サービス	2013年3月期		2014年3月期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
エンベデッドソフトウェア	816	48.5	1,157	55.8	141.9
コアテクノロジーサービス	129	7.7	153	7.4	118.7
技術アプリケーション	591	35.1	668	32.2	113.0
ソリューション	146	8.7	96	4.6	65.9
合計	1,683	100.0	2,076	100.0	123.4

- オープンプラットフォーム関連のサービス系のエンベデッドソフトウェアが増加
- 官公庁系、放送局向け技術アプリケーションが増加
- 全体構成は、エンベデッドソフトウェアの割合が増加

# 第2四半期末の受注状況

前期を上回る受注残高で下期がスタート

ビジネスフィールド	2013年3月期		2014年3月期				受注残高 前期比 (%)
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	計画達成率 (%)	受注残高 (百万円)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	220	163	147	76.4	79	71.7	48.5
ワイヤレス	687	317	880	104.6	377	69.9	119.0
インターネット	249	125	251	96.8	84	128.4	67.2
社会基盤システム	198	155	534	173.7	407	171.8	262.6
宇宙先端システム	210	112	166	76.8	100	104.3	89.7
ソリューション	220	140	68	84.2	15	36.1	11.0
合計	1,786	1,014	2,048	107.8	1,065	97.4	105.0

- 受注高は、計画を上回り、前年同期比でも262百万円(15%)の増加
- 受注残高は、計画を下回ったが、前年同期比では50百万円(5%)の増加
- 社会基盤システム、ワイヤレスの受注残高が前年同期比で大幅増

# 第2四半期末貸借対照表

単位:百万円

	2013年3月末日	2013年9月末日	増減
流動資産	3,616	3,510	▲106
固定資産	1,213	1,184	▲29
流動負債	789	594	▲195
固定負債	64	73	9
純資産	3,975	4,027	52
総資産	4,829	4,694	▲135
自己資本比率	82.3%	85.8%	3.5%
流動比率	457.8%	590.8%	133.0%
固定比率	30.5%	29.4%	▲1.1%

**流動資産** 主に受取手形及び売掛金の減少

**固定資産** 主に販売用ソフトウェアの減価償却による無形固定資産の減少

**流動負債** 主に未払法人税等の減少

**固定負債** 特別な変動なし

# 第2四半期キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	296	137	▲159
投資活動によるキャッシュ・フロー	153	▲24	▲177
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲76	▲122	▲46
現金及び同等物の増減額	372	▲8	▲380
現金及び同等物期末残高	2,369	2,093	▲276
参考)長期預金	300	200	▲100
参考)現預金+長期預金	2,669	2,293	▲376

- 営業キャッシュ・フロー 売上債権の回収額は増加したものの、外注費の増加と増床関連費用の発生により支出が増加し、収入が減少
- 投資キャッシュ・フロー 前年同期は長期預金払戻による収入があったが、今期は支出のみ
- 財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の増加による支出の増加



# 通期業績見通し (2014年3月期)

# 2014年3月期業績見通し

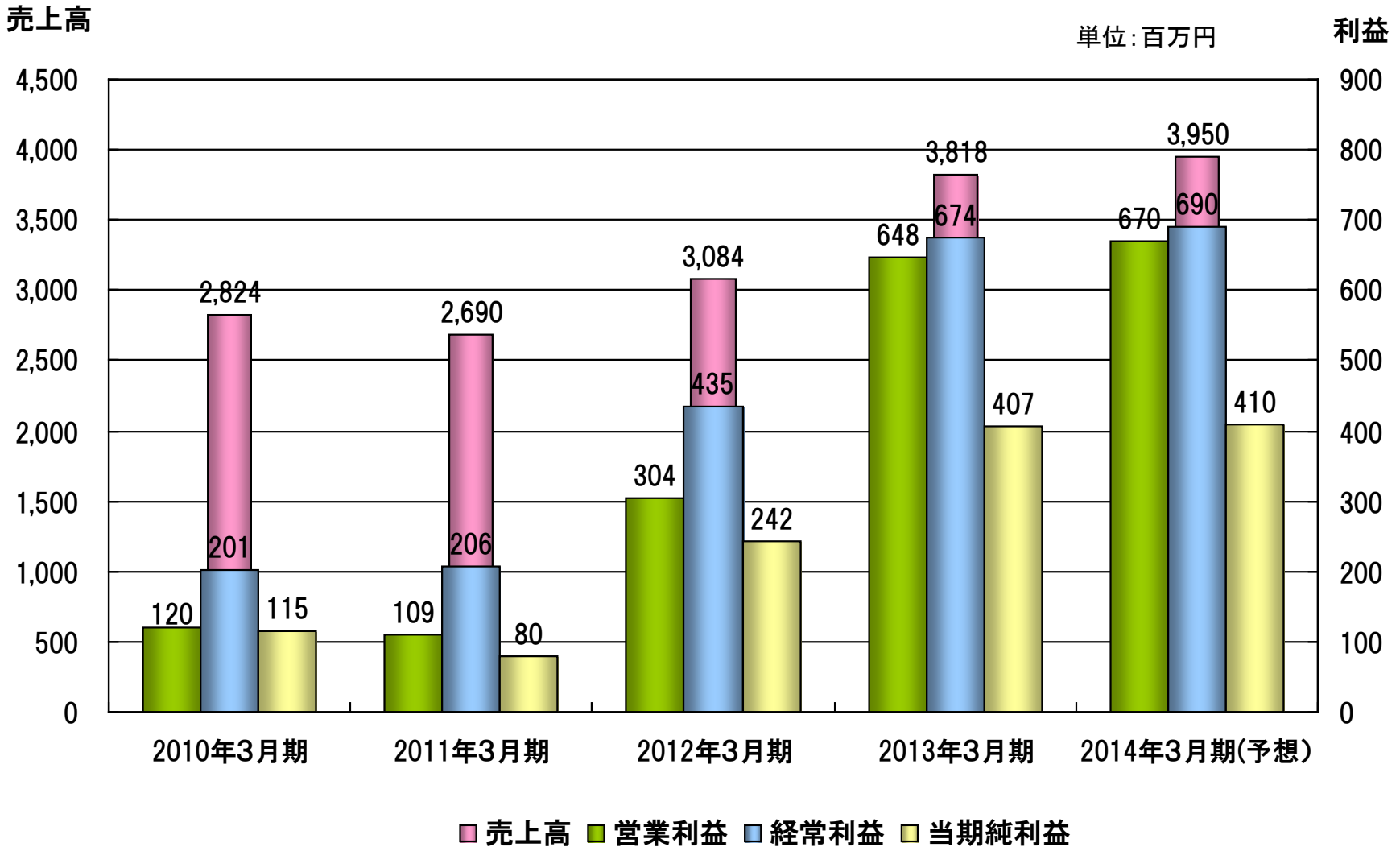
業績見通しは変更なし

単位:百万円

	2013年3月期 実績	2014年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	3,818	3,950	103.5
売上原価	2,649	2,750	103.8
売上総利益	1,169	1,200	102.7
販売管理費	520	530	101.8
営業利益 (営業利益率)	648 (17.0%)	670 (17.0%)	103.4 (ポイント増減無し)
経常利益	674	690	102.3
当期純利益	407	410	100.7

- 事業環境は、上期と同様な傾向が続く
- 経済産業省のロボットの研究を受託したため、計画より研究開発費が増加するが、補助金収入(営業外)が増加し、経常利益への影響は僅少
- 前期は下期の利益面が好調だったため、下期は前期を下回る計画だが、通期で増収増益を目指す

# 通期業績の推移



# 2014年3月期重点テーマ

開発体制を強化して顧客基盤のさらなる強化を図り、継続的な成長を目指す

期初方針	第3四半期以降の方針
<p>現場力で「質を下げずに量をこなす」に挑戦する: QCD&amp;I</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■協力会社を組み入れた体制でも高い品質を維持し、「質が量を呼ぶ」ことにより受注を増やす。</li> <li>■基本方針である「QCD&amp;I」でお客様満足度を高め、顧客基盤を強化してリピート商談につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■協力会社を組み入れた体制での品質維持に組織的に取り組んでおり、成果が出ている。下期も継続的に取り組む。</li> </ul>
<p>成長が期待できる市場に参入する: オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■オープンプラットフォームは、Android関連や電子マネー(NFC含む)、MM放送に加え、Tizenなどの新しいプラットフォームの開発案件の受注を目指す。</li> <li>■環境エネルギー分野のビジネス化を推進し、復興需要を含めた開発案件の受注を目指す。</li> <li>■ロボットは、RTMSafetyで介護や家庭、さらにスマートハウスなどの環境エネルギー市場との連携を視野に市場を開拓する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■オープンプラットフォームは、Tizenなどの新しいプラットフォームの開発案件を受注して好調であった。下期はこれに加えて、来期に向けて取引先、領域の拡大など次のマーケット拡大にも注力する。</li> <li>■環境エネルギー分野は、太陽光発電監視システムなどにビジネス領域を広げた。下期はこれを拡大する。</li> <li>■ロボットは、車両自動走行や巡回ロボットなどを受託した。下期は、経済産業省の受託研究を通してビジネスを推進する。</li> </ul>
<p>変化先取りに注力: 研究開発と製品開発に積極投資</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■360° 全方位テレビなどビジネス化に向けて積極的に取り組む。</li> <li>■環境エネルギーの実証実験を継続する。</li> <li>■ロボットに関しては、国の公募案件に参画し、モジュール化・部品化の研究を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■360° 全方位テレビは、ビジネス化に向けて品質向上などの研究開発を進めている。</li> <li>■環境エネルギーの実証実験については、計画どおり進行中であり、下期はビジネス化の検討を進める。</li> <li>■ロボットは、経済産業省の「ロボット介護機器開発・導入促進事業(基準策定・評価事業)」に参画している。モジュール化、部品化の研究を促進する。</li> </ul>

# 2014年3月期BF別業績見通し

## ワイヤレスと社会基盤システムが堅調な見通し

ビジネスフィールド	期初の方針	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのオープンプラットフォームに関連する商談が継続することが期待できることから、ほぼ横ばい	→	移動体通信事業者向けのオープンプラットフォームに関連する商談は継続しているものの、法人向けサービスの案件が減少していることから、減少	↘
ワイヤレス	Androidを搭載したスマートフォンやタブレットのエンベデッドソフトウェアに加え、Tizenなどの新しいプラットフォームやマルチメディア放送、NFCを使った新たなサービス系の商談が期待できることから、増加	↗	Androidを搭載したスマートフォンやタブレットのエンベデッドソフトウェアは減少傾向にあるものの、Tizenなどの新しいプラットフォームやマルチメディア放送、NFCを使った新たなサービス系の商談が増加していることから、増加	↗
インターネット	非接触型ICのエンベデッドソフトウェアを中心として、前期と同様な商談状況が見込めることから、ほぼ横ばい	→	非接触型ICのエンベデッドソフトウェアは堅調だが、民間企業向けが減少していることから、減少	↘
社会基盤システム	防衛、放送、復興需要を含めた環境エネルギー分野、官公庁需要の増加が期待できることから、増加	↗	官公庁系、放送局向けの開発に、防衛や交通などの案件が加わることから、大幅に増加	↗↗
宇宙先端システム	衛星搭載エンベデッドソフトウェア、国の研究機関の受注も前期並みでほぼ横ばい	→	先端技術に関わる国の研究機関向けの商談が続くが、下期は宇宙関連の減少が見込まれ、横ばい	→
ソリューション	Android版地上デジタル放送製品の販売が減少すると予想されることから、減少	↘	Android版地上デジタル放送製品の販売が減少	↘

# 注力分野の状況

## オープンプラットフォーム

- モバイルネットワークBF／ワイヤレスBF／インターネットBF

## 環境エネルギー

- 社会基盤システムBF

## ロボット

- 宇宙先端システムBF

# オープンプラットフォーム

## 新技術への対応を加速し、引き続きマーケット拡大

### 状況

- ・ 2008年よりAndroidスマートフォン向けマーケットを開拓
- ・ Androidスマートフォン向けソフトウェア開発を推進、特に日本国内仕様への対応(オープンプラットフォームにガラパゴスを)にフォーカスしマーケットを拡大

### 実績 (2014年3月期第2四半期 売上高約12億円)

- ・ 大規模なAndroidスマートフォン、タブレット向けソフトウェア開発
- ・ Tizenなど新しいプラットフォーム向けの開発、日本国内仕様への対応
- ・ 通信キャリアや携帯メーカーのスマートフォンを使用した独自サービスのクライアント・サーバの開発
- ・ 電子マネー・MM放送・NFCなど競争優位が確保できる技術が活用されるマーケットが拡大
- ・ Android,Tizenに関する知識と実績を活かし、通信キャリア向けコアテクノロジーサービス



### 今後の方針(新技術への対応を加速しマーケットを拡大)

- ・ ワンセグソリューションairCube for Androidの資産を活かし、フルセグソリューションの開発
- ・ スマートフォンのみならず車載情報機器のマーケットに参入し、新規顧客を開拓
- ・ 360° 全方位テレビなど次の成長に向けた新しい技術・ソリューションの市場投入を促進

## 防災・復興などを含め、他社と共同ビジネスを推進

### 状況

- ・ 2008年度に急速充電器遠隔監視制御システム(G-EV)を開発。環境エネルギー分野への取組み開始
- ・ 2009年度にKDDIと共同で「スマート充電システム」を開発、共同特許出願申請。地方自治体などへ販売実績
- ・ 2010年度にNEDOの「蓄電複合システム化技術開発」共同研究委託先に選定され、デンソー、豊田通商と共に商用施設用蓄電池付BEMS (Building and Energy Management System)の研究開発と実証検証に参画(経済産業省補助事業として継続中)
- ・ 福島県の太陽光エネルギーマネジメントシステムの開発に参画、その後太陽光エネルギーマネジメントシステムの開発プロジェクトを受託

### 実績 (2014年3月期第2四半期 売上高約17百万円、研究補助金約3百万円)

- ・ 豊田市低炭素社会システムの実証プロジェクトに参画  
→ビル機器・設備等の運転管理によるエネルギー消費量の「見える化」エンジン開発、  
エネルギー需要予測エンジン、太陽光パネル発電予測エンジン等の予測エンジンの開発と  
電力制御(ピークカット)の検討、豊田市にて実際のサービス運営を実施し、ビジネスモデル
- ・ 太陽光発電エネルギーマネジメントシステムを受託、開発中
- ・ 地方都市防災計画(シミュレーション)



### 今後の方針(他社とアライアンスを組んで推進)

- ・ 商用施設でのBEMSのビジネス化を推進(デンソー、豊田通商、KDDIとのアライアンス)
- ・ 太陽光発電エネルギーマネジメントシステムの開発及びソリューション化
- ・ 環境エネルギー関連の受託開発
- ・ 防災・復興など範囲を広げてビジネスを推進



## ユビキタス社会の究極の端末はロボット

### 状況

- ・ 2003年からロボットに取り組み、ロボット関連技術を持つ数少ないソフトウェアベンダーで先行優位
- ・ 2005年からNEDOからの受託研究を開始、2012年に「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」成果公開
- ・ 国際標準仕様RTC(Robot Technology Component)準拠のRTミドルウェアをコアテクノロジーとしてビジネス化を推進
- ・ 機能安全対応RTミドルウェアRTMSafetyについてIEC61508の認証を取得、2012年5月販売開始
- ・ 経済産業省「ロボット介護機器開発・導入促進事業(基準策定・評価事業)」に参画が決定

実績 (2014年3月期第2四半期 売上高約26百万円、研究補助金約5百万円)

- ・ 開発案件
  - ・ 車両自動走行ソフトウェアの開発
  - ・ 危険作業用ロボット遠隔操作ソフトウェアの開発
  - ・ データセンター巡回センシングロボット開発の受託
  - ・ ロボットメーカ、住宅メーカ、大学からの受託開発
- ・ 論文発表・展示会出展他
  - ・ 産総研オープンラボ、国際ロボット展にてRTMSafetyの展示
  - ・ 日本ロボット学会にて論文発表
  - ・ 宇宙科学技術連合講演会にて宇宙ロボット向けミドルウェアに関する論文発表

### 今後の方針

- ・ 機能安全対応RTミドルウェア RTMSafetyを販売し、ビジネス化を推進
- ・ サービスロボットや実用ロボットの受託開発を推進
- ・ ロボット関連の公募案件に参画し、モジュール化・部品化の研究を促進



# ロボット／ロボット介護機器開発・導入促進事業(基準策定・評価事業)

**経済産業省**  
**「ロボット介護機器開発・導入促進事業」**  
要介護者の自立促進や介護従事者の負担軽減の実現とロボット介護機器の新たな市場創出を目的とする事業

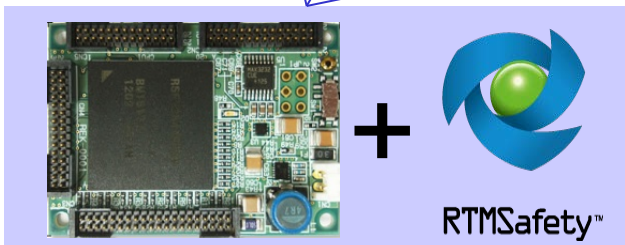
**開発補助事業**  
介護現場のニーズを踏まえて重点分野を特定し、ロボット介護機器の開発を補助(機器メーカー)

**基準策定・評価事業**  
**ユーザ側の視点に立った**安全基準の策定と評価手法の確立、安全とコストの両立のための機能・部品等のモジュール化・標準化(介護・医療の団体・研究機関など)

**基準策定・評価事業に参画**  
当社ロボット用ミドルウェア「RTM Safety」とCPUボードとをパッケージ化し、機能安全に対応した共通基盤モジュールを開発  
↓  
ロボット介護機器を安全にかつ安価に開発できることを目指す



出典: 経済産業省HP



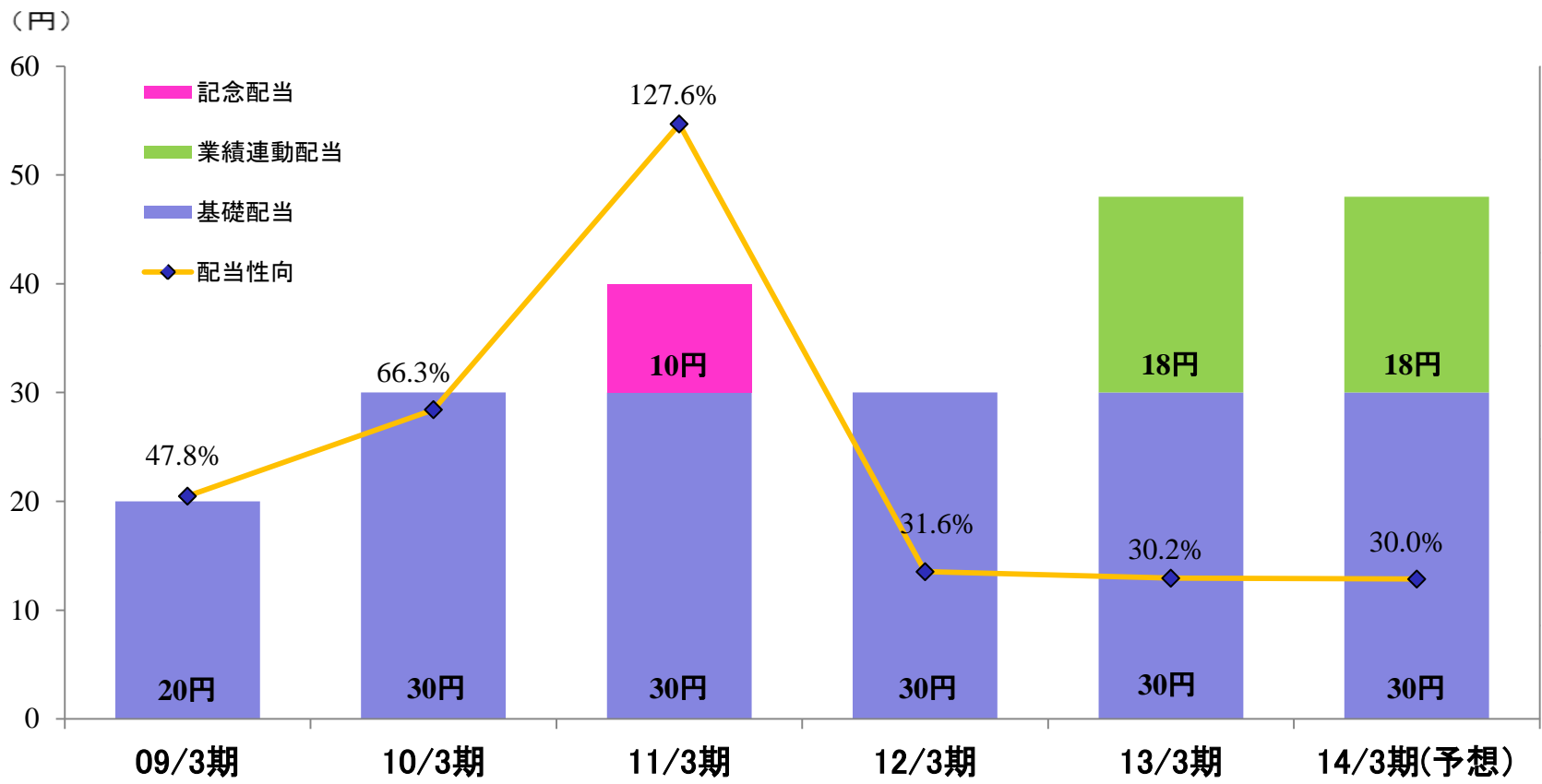
**機能安全**に対応したCPUモジュール



資料提供: 独立行政法人 産業技術総合研究所

# 配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して每期決定する。配当性向は、当面30%を目指す。安定的に配当する部分は、1株当たり30円とする。
- 2014年3月期は、配当性向30%で算出した金額48円の予想とする。



# 本日はありがとうございました

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03-5491-4770

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化するをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものではなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。